～3年ぶりの開催！ミシンボランティア～

昨年１０月２７日に「ファッション造形」を選択した３年生１５名が石塚小学校にミシンボランティアに行きました。ミシンボランティアとは、小学生にミシンの使い方やアイロンのかけ方を教える交流活動で、コロナウイルスの流行により３年ぶりの開催となりました。

今回ナップザックの製作を行いました。高校生は入学して初めて地域の子どもたちとかかわる活動で、はじめは小学生も高校生も緊張している様子でしたが活動を行っていくなかでわからないところを聞いたり教えあったりしていました。実際に参加した高校生は、「最初はうまく教えられるか不安だったけれど仲良くなれてよかった。小学生のナップザックがきれいにできてよかった。」「ナップザックが完成してうれしそうな小学生の表情を見て、教えてよかったなと思った。」と話していました。

この活動を通して、高校生は小学生にわかりやすく教えることの難しさと楽しさを知ることができました。小学生が少しでもミシンでの製作を楽しんでもらい好きになってくれたら嬉しいです。

「栃木南部よみうりタイムス」

に取り上げていただきました！

栃木南部よみうりタイムス

小学生にミシン指導

佐野松桜高家政科生徒

【佐野】緊張の面持ちでミシンに手をかける小学生。高校生の優しい指導を受け、ナップザックを仕上げていった。

佐野松桜高家政科3年の生徒15人が、10月27日、佐野市立石塚小学校で、同校6年生児童20人にミシン縫いの基礎を指導した。

これは高校生と地元小学生が交流をすることを通して、「ものつくりの楽しさを知り、ミシンを活用できる達成感」と「自己有用感」の高揚を目的に実施。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間中止になっていたが、3年ぶりに行うことにした。

当日、児童らが桃色したのは、ナップザック作り。生徒たちは、ミシンの扱い方、縫い方、アイロンのかけ方など、言葉で説明するだけでなく、実際に見本を見せたり、手を添えたりして熱心に教えた。

佐野松桜高の小堀美空さん、向田朱里さんは「すごもは大好きなので楽しいです。話を素直に聞いてくれて良かった」

「みんな、生懸命取り組んでくれました。わかりやすく説明することや教し方が勉強になりました」と感想を話った。

一方、教わった澤井大輝さん、池田心優さんは「自分ひとりではできないことをサポートしてくれました。とても優しくてうれしかった。思ったよりも上手にできました」

「アイロンの先の形の意味など、知らないことを知ることができてよかったです。高校生の人たちはミシンも手早くてびっくりしました」と話していた。

ミシンボランティアに参加した高校生と石塚小の生徒